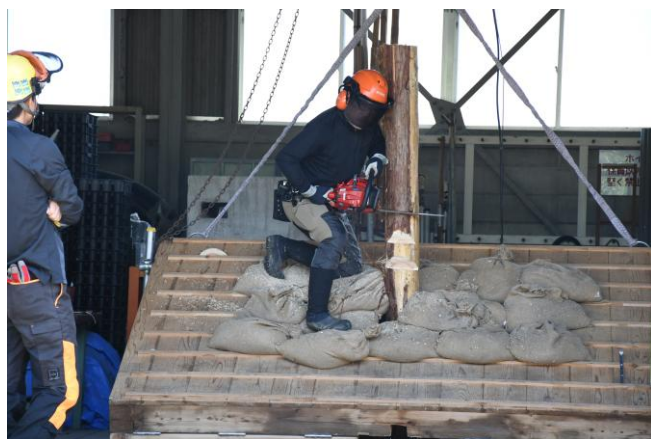


令和7年度 業務概要



【森林教育 子ども森の写真教室】



【みえ森林・林業アカデミー
プレーヤー育成コース・伐倒技術講座】



【研究 三重県産ウスヒラタケ】

三重県林業研究所

〒515-2602 三重県津市白山町二本木 3769-1
TEL : 059-262-0110 FAX : 059-262-0960

I 概 況

1. 沿 革

昭和 38 年 4 月、林業の実用技術の開発に重点をおく試験研究と研究成果の普及指導の場として津市（旧一志郡）白山町二本木に三重県林業技術普及センターが設立された。昭和 39 年 3 月に同町川口に実習林用地（約 17ha）、昭和 42 年 3 月に同町川口に採種園用地（約 7ha）が購入された。昭和 48 年 12 月に本館が新築され、昭和 49 年 4 月に三重県林業技術センターと改称された。

昭和 55 年 5 月に、天皇・皇后両陛下をお迎えして第 31 回全国植樹祭お手まき行事が行われ、これを機にセンター組織の一つとして緑化センターが設置され、付属施設の展示館、樹木図鑑園、芝生広場等が整備された。平成元～5 年度に木材加工試験研究施設、平成 7 年度にきのこ栽培棟が整備された。

平成 9 年度に県試験研究機関が統合され、平成 10 年 4 月に林業技術センターは農林水産部から切離され、三重県科学技術振興センター林業技術センターとなった。これに伴い林業普及指導及び林業後継者育成研修等を主業務としていた指導室は、農林水産商工部林業振興課へ移管された。また、緑化センターは廃止され、それに附属していた展示館、樹木図鑑園等は林業技術センターの管理となった。平成 13 年度に三重県科学技術振興センターの組織が再編整備され、名称は三重県科学技術振興センター林業研究部となった。平成 19 年度に科学技術振興センターが廃止となり、平成 20 年 4 月に環境森林部に帰属し、三重県林業研究所と改称された。

平成 24 年 4 月に部局の再編成により、環境森林部森林・林業分野は農林水産部に編入され、当所も農林水産部の所属となった。

平成 30 年 4 月に「三重県林業人材育成方針」に基づく新たな林業人材育成機関「みえ森林・林業アカデミー」を開講するためアカデミー運営課が設置され、平成 31 年 4 月に「みえ森林・林業アカデミー」を本格開講し、林業の既就業者を対象とした人材育成の機能が加わった。

また、令和 3 年 4 月、林業の人材育成や森林教育、研究や普及といった機能を一元化し、子どもから大人までの林業を意識した一貫した人材育成を展開するため、普及・森林教育課が設置された。

令和 5 年 3 月にみえ森林・林業アカデミーの新たな講義棟としてみえ森林・アカデミー棟が整備された。

2. 目 的

(1) 試験研究

森林は、県土の 3 分の 2 を占め、木材の生産をはじめ、水源涵養や地球温暖化防止、県土保全、保健休養など様々な形で我々の生活に関わっており、森林の有するこれらの機能を持続的に活用することは大きな課題となっている。

三重県林業研究所では、「三重の森林づくり基本計画」で示された研究推進方向を踏まえ、「林業研究所研究・技術開発推進方針」で定めた推進方針に従い多様化する県民のニーズに対応した研究の推進と実用的な技術の開発を行い、その成果の実用化・商品化を進めるとともに、情報の収集・提供を行うことで、森林・林業・木材産業の振興はもとより、県民生活の安全・安心の確保、環境の保全に寄与することを目指している。

また、農業、畜産、林業、水産の 4 研究所が連携して「農林水産試験研究中期ビジョン」を策定し、試験研究機関の役割と推進方向、試験研究推進のための方策等を示している。

(2) 普及・森林教育

森林所有者等に対し、林業に関する技術及び知識を普及するとともに、森林施業に関する指導等を行い、林業技術の改善、経営の合理化、森林の整備を促進し、森林の有する多面的機能の発揮及び林業の持続的かつ健全な育成に資することを目的に林業の普及に取り組む。

森林教育の取組を広げていくための年代別の森林教育プログラムの作成や主体的・対話的な

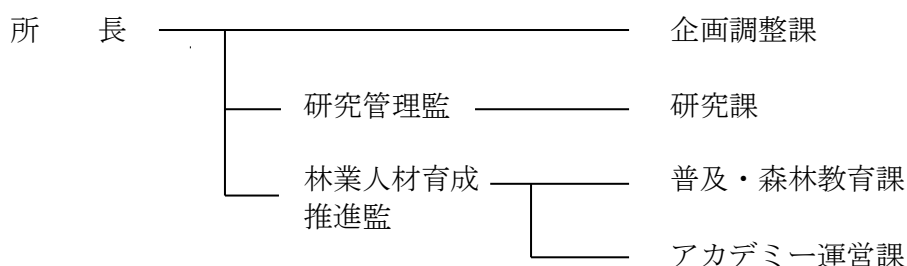
学びの実践を取り入れた森林教育指導者の育成、森林教育に気軽にアクセスできる場や機会の拡大等に取り組み、森林・林業をはじめとするさまざまな課題に主体的に対応できる人材の育成を進める。

(3) 林業の担い手対策及び人材育成

県内の多くを占める中山間地域の振興には、主要産業である林業の活性化のための、次代を担う林業人材の育成が重要課題である。

このことから、有識者や林業・木材産業関係者からなる検討会を設置して議論し、平成 29 年 3 月に「三重県林業人材育成方針」を策定した。この方針や県内関係業界などとの意見交換の結果を踏まえ、新たな林業人材育成機関「みえ森林・林業アカデミー」を設置し、新たな視点と多様な経営感覚を持ち、中山間地域の活性化を担う林業人材の育成を行っている。

3. 組 織



4. 職 員

	所 長	久保村 実
	総括研究員兼研究管理監	山吉 栄作
	林業人材育成推進監	北出 満
企画調整課	副参事兼課長	垣野 晶彦
	課長代理	木平 浩介
	主 幹	浅井 俊次
	主 任	明田 香奈子
研究課	技 師	竹内 春仁
	主幹研究員兼課長	東川 恵美
	主幹研究員兼課長代理	中山 伸吾
	主査研究員兼課長代理	海津 江里
	主査研究員	川島 直通
	主査研究員	井上 伸
普及・森林教育課	課長（兼）	北出 満
	課長代理	角屋 圭祐
	主 任	瀧川 史也
アカデミー運営課	副参事兼課長	島田 博匡
	課長代理	伊藤 憲吾
	主 査	辻本 秀人

Ⅱ 事業の概要

1. 当初予算の概要

(単位：千円)

項 目 (款 項 目 事業目)	予算額	財 源 内 訳		
		県 費	国 費	その他
農林水産業費 林業費 林業試験研究費 林業試験研究管理費	44,858	32,858		12,000
農林水産業費 林業費 林業試験研究費 林業技術開発推進費	3,855		2,155	1,700
農林水産業費 林業費 林業総務費 みえ森林・林業アカデミー運営事業費	46,427			46,427
農林水産業費 林業費 林業振興指導費 林業普及指導事業費	6,211	247	5,964	
農林水産業費 林業費 緑化対策費 森を育む人づくり推進事業費	60,615			60,615
農林水産業費 林業費 造林費 災害に強い森林づくり推進事業費	9,925			9,925
農林水産業費 林業費 森林振興指導費 林業・木材産業構造改革事業費 (優良種苗確保事業)	95	75		20
農林水産業費 林業費 森林病虫害防除費 森林病虫害防除費	102	102		
農林水産業費 林業費 森林総務費 新たな森林経営管理体制支援事業費	816			816
農林水産業費 林業費 緑化対策費 みんなで取り組む三重の森づくり推進事業費	949			949
合 計	173,853	33,282	8,119	132,452

2. 事業の内容

(1) 林業試験研究管理

林業研究所の庁舎及び研究施設・設備の維持管理や、会計年度任用職員の報酬及び社会保険料の支出、研究用資機材の調達など適切な管理運営を行う。また、林業研究所で行う試験研究に対する評価を行う研究評価委員会を開催する。

(2) 林業技術開発事業

① 農林業における獣害防止に向けた捕獲技術の実証研究

シカ等の野生動物の効果的な誘引方法やワナの使用方法を検討するとともに、モデル地区での捕獲の推移とシカの出没頻度・生息密度の推移との関係を調査する。

② 森林におけるシカ出沒モニタリングの自動化に関する検証

携帯電話の通信エリア外での効率的な捕獲を実現するために、LPWA を活用したシカの出没をモニタリングする機器およびシステムの開発・実証を行う。

③ 先端技術を活用した鳥獣被害対策システムの構築・実証

ICT 機器により取得した多地点での野生動物の出没情報を統合・可視化・共有するシステムについて、効率的な捕獲への有効性を検証する。

(3) みえ森林・林業アカデミー運営事業

みえ森林・林業アカデミーにおいて、主に既就業者を対象とした基本コースのほか、今後の森林整備の推進に重要な役割を果たす市町職員向けの講座などを実施する。

また、県内で唯一、森林・林業に関するコースを設置する久居農林高校生徒を対象とした林業の学習機会の提供のほか、非住宅木造建築物の設計講座など、専門的、実践的な知識、技術向上を集中的に行う選択講座の運営を行う。

① アカデミー講座運営事業

職場で担う役割に応じた基本3コース（ディレクター育成コース、マネージャー育成コース、プレーヤー育成コース）、市町職員を対象とした講座、専門的、実践的な知識、技術向上を集中的に行う選択講座などの運営を行うとともに、次年度の運営計画の立案（カリキュラム作成、講師人選、募集要項等）等を実施する。

選択講座においては、森林 GIS やドローン等を活用した森林調査、高所での特殊伐採の技術を学ぶ講座のほか、非住宅木造建築物の設計を行える建築士育成のための建築士や建築学科等の高校生等を対象とした林業・木材産業・木造施設の現場体験・見学会などの研修会を実施する。

② アカデミー講師育成・講座ブラッシュアップ事業

アカデミー講座の一部を担える講師人材を育成することを目的に、伐木業務の特別教育、刈り払い業務の安全衛生教育などの講座受講や研修会への参加等を促進し、得られた知識、技術などを活用して講師を務め、アカデミー講座等へ反映する。

また、カリキュラムのブラッシュアップを目的に、調査、研究（大学等との共同研究を含む）を実施するとともに、得られた知見等を講座に反映する。

i 地域に適した新植地の獣害防除法の開発

防護柵破損要因および苗木食害発生要因の解明、防護柵内へのシカ侵入検知技術の開発、新植地周辺におけるシカ捕獲実証を行い、防除水準に応じた新植地における獣害防除方法の確立を目指す。

ii スギ大径材より加工される板類の利用に係る研究

スギ大径材の板材利用を目的に、大径材から製材されたスギ板の人工乾燥または天然乾燥に要する日数等を調査するとともに、目視による品質基準や等級別の出現頻度、強度分布等を明らかにする。

iii 軽労化を実現するドローン運搬計画作成手法の開発

造林地及び植栽作業の現況調査、ドローンによる苗木運搬実証試験を行い、造林作業軽労化を実現するドローン運搬計画作成手法を開発する。

(4) 普及指導活動事業

① 地域運営

森林所有者等に対して林業技術や知識を普及する際に必要となる情報の収集・整理などを通じて、きめ細やかな普及・指導を行うとともに、活動に必要な資器材の整備等を行う。

② 普及研修・巡回指導

林業普及指導員が、森林所有者等に対して、林業に関する技術及び知識を普及するほか、森林施業に関する指導等を行う。また、林業普及指導員の資質向上を目的に、研修等への参加や、スキルアップのための研修を実施する。

③ 普及情報システム化

i スギ新植地における保育作業省力化技術の開発

スギコンテナ大苗を活用した下刈り省略、シカ食害回避の可能性、通年植栽への適用可否を検討し、スギ新植地の保育作業省力化における大苗の有効性を明らかにする。

ii A I 等を活用した製材システムの開発

大径材や無節の材を製材する場合などは、熟練した職人が丸太の形状や節の具合、木目などを見極め、最も適した製品となるよう木取りを行っており、この技術を画像データ等で記録し、効率的な木取りと共に、製材品の品質が向上するための調査に取り組む。

iii 三重県産ウスヒラタケの効率的な生産技術の開発

他品種栽培用培地を用いたウスヒラタケ生産や面積当たりの発生量増大が可能となる発生処理方法等を検討し、効率的なウスヒラタケ生産手法を明らかにする。加えて、生産現場での栽培実証試験を行い、ウスヒラタケ生産の普及を図る。

iv スギ未利用材等を利用したきのこ栽培技術の開発

現在不足しているシイタケ菌床用の広葉樹おが粉に代わる、新しい培地基材を探索し生産の安定とコストダウンを図る。また、シイタケ以外にもハナビラタケ等特殊な培地基材を用いるきのこについて安価で効果の高い培地基材を探索する。

(5) 森を育む人づくりサポート体制整備事業

① みえ森林教育ビジョン推進

「みえ森林教育ビジョン」を実現するため、小学生向けの森林教育ワークブック等の作成や、「みえ森林教育プログラム」の作成、子ども向け講座、企業向け講座、みえ森林教育シンポジウムの開催などを行う。

② みえ森づくりサポートセンター運営

森林教育や森づくり活動にかかる総合窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を運営し、森林教育指導者や森づくり技術者の育成を行うほか、きめ細かい各種相談対応など、広域的・総合的なサポートを行う。

③ みえ森林教育ステーション運営・整備

三重県民の森に整備した常設型の木製遊具や玩具に触れ合える森林教育ステーションの運営を行うとともに、林業研究所に野外における森林教育フィールドを整備する。

また、木製遊具や玩具に触れ合える常設型の森林教育ステーションの認定を行う。

(6) 災害に強い森林づくり推進事業（事業効果検証に係る調査・研究事業）

「みえ森と緑の県民税」を財源とした「災害に強い森林づくり推進事業」の一環として行われている「災害緩衝林整備事業」において、事業実施効果の検証を目的として下記の調査を実施する。

① 多様な条件下における土砂止設置効果の検証

山腹部における土砂止の表土流亡抑制効果を検証するために、多様な条件下に設置された土砂止の効果発揮状況を調査し、効率的かつ効果的な設置方法を明らかにする。

② 航空レーザ測量データを活用した目標径級への到達状況の検証

調整伐による立木の成長促進効果を検証するために、三重県等が実施した航空レーザ測量による森林資源解析データを解析し、過去に調整伐が実施された事業地における目標径

級への到達状況を明らかにする。

③ 3次元点群測量による流木発生抑制効果の検証

溪流部における危険木除去の長期的な流木発生抑制効果を検証するために、事業実施溪流における流木等危険木発生状況を3次元点群測量により調査する。

(7) 優良種苗確保事業

主伐、再造林による森林の若返りを推進するため、スギ特定母樹及びヒノキ特定母樹等からの安定的な優良種苗の確保に向け、他府県の最新技術等の情報収集を行うとともに、資質向上を目的に研修等に参加し、普及を図る。

(8) 森林病虫害等防除事業（マツノマダラカミキリ発生予察事業等）

マツクイムシ被害防除のための殺虫剤予防散布時期をよりの確に把握するため、県内2カ所のマツ林から、マツノマダラカミキリ寄生木を採取し、4月下旬から成虫脱出日まで割材して幼虫の生育状況を調査し、成虫脱出後7月中旬までは成虫の脱出消長を調査する。

(9) 新たな森林経営管理体制支援事業

少花粉スギ等の種子・苗木の増産体制の確立（林木育種事業）

少花粉スギ、スギ及びヒノキの特定母樹等の花粉症対策品種並びに成長の早い精英樹の品種の種子を安定的に供給することを目的に、採種園・採穂園の適正な管理を行う。あわせて、県内の認定特定増殖事業者への指導を行い、県内の花粉症対策苗木の増産体制の整備に資する。

採種園・採穂園の概況

令和7年3月

区 分	採種園 (ha)	採穂園 (ha)
スギ精英樹	0.45	0.46
スギ特定母樹	0.24 (※)	—
少花粉スギ	0.06 (※)	—
ヒノキ精英樹	7.37	0.21
ヒノキ特定母樹	0.39 (※)	—
マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ	0.85	—
計	9.36	0.67

※ミニチュア採種園

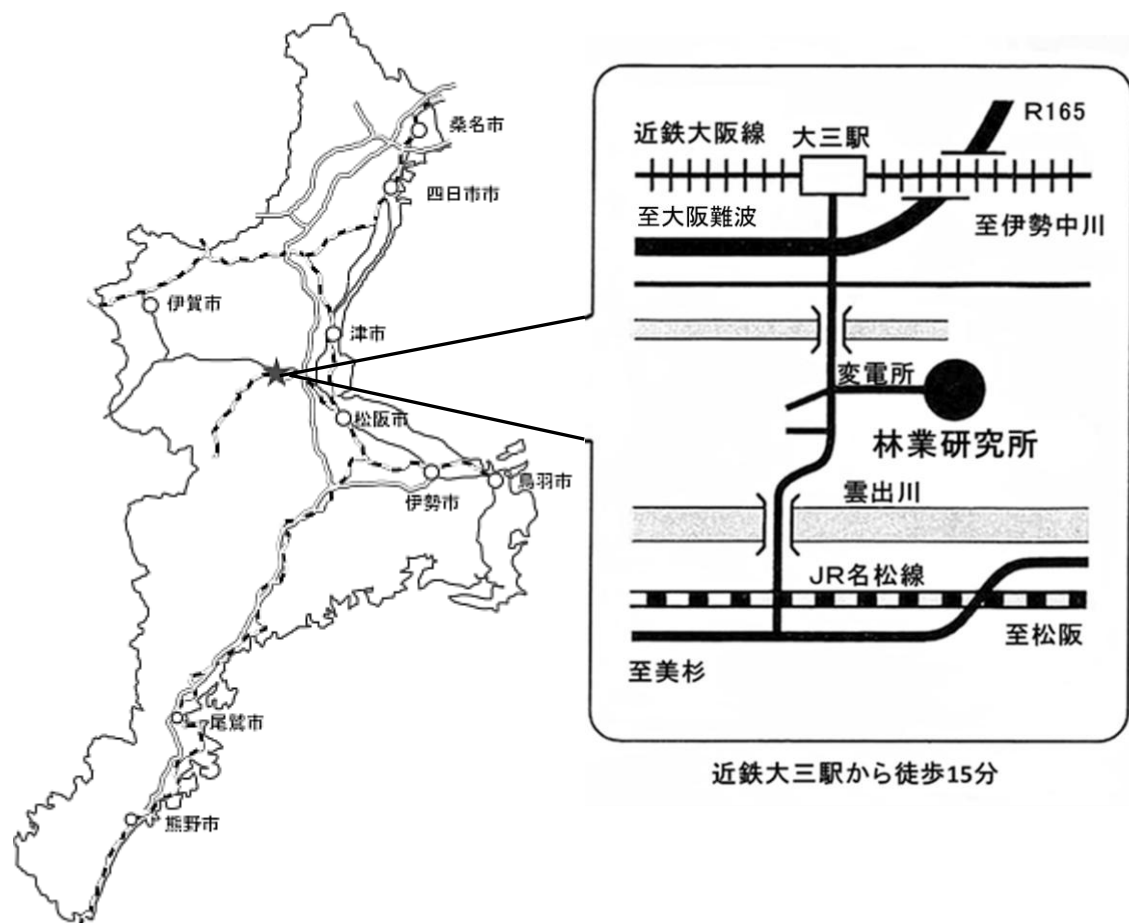
(10) みんなで取り組む三重の森づくり推進事業

三重県の気候風土に適した広葉樹の苗木育成技術の開発

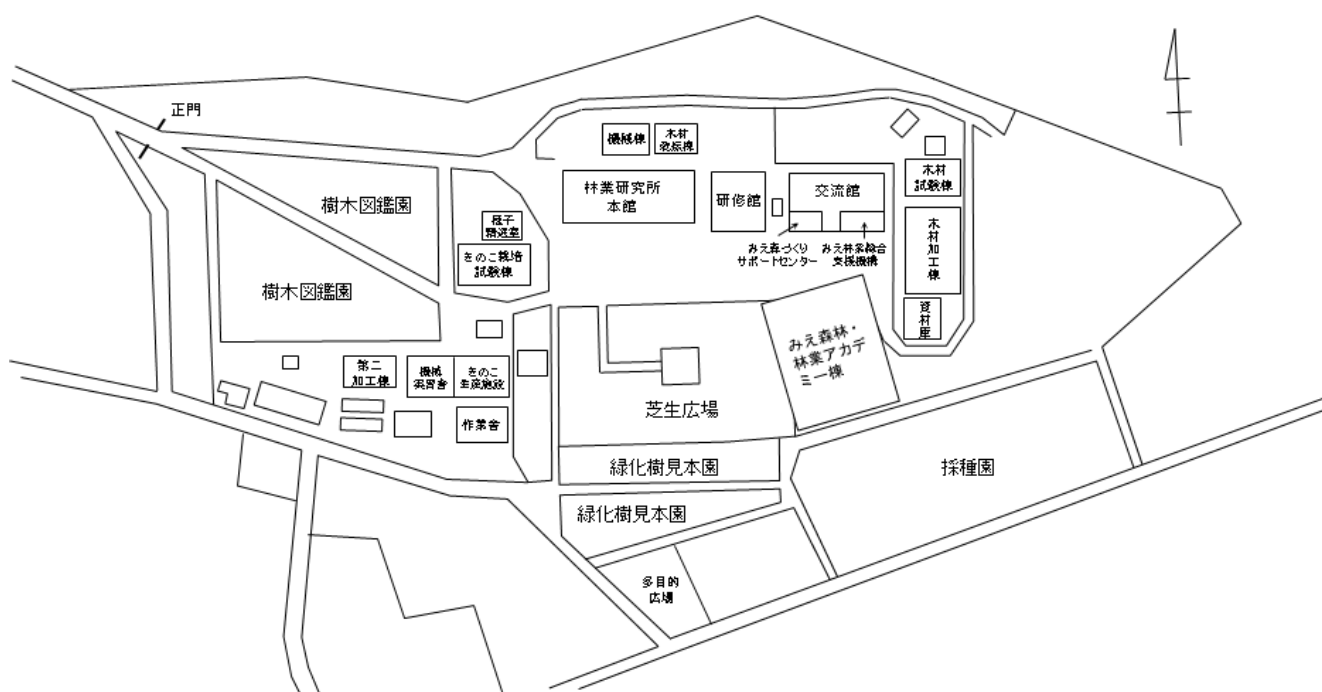
広葉樹造林における地域の気候風土に適した樹種選定を判断する基準をまとめるほか、主たる広葉樹種について苗木育成を行い、苗木の育成に当たっての留意点などをまとめた県民向けマニュアルを作成する。

Ⅲ 位置及び施設

1. 位置図



2. 構内配置図





令和 7 年（2025 年）5 月発行

令和 7 年度業務概要

発 行 三重県林業研究所

〒515-2602 三重県津市白山町二本木 3769-1

TEL : 059-262-0110

FAX : 059-262-0960

E-mail : ringi@pref.mie.lg.jp

<http://www.pref.mie.lg.jp/ringi/hp/index.htm>